

帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業【宇佐市】

現状と課題

- ・帰国・外国人児童生徒等への指導ができる支援体制が全体的にはまだ不十分である。
- ・多言語化が進み、母語での指導が困難となってきた。
- ・人材を確保・育成に努め、研修に参加したり、学校の要請に応じて人材を派遣を行ってきたりしたが、急遽、転入してきた児童が増加しており、今後、学校現場の要望に応じた派遣が難しくなる

事業内容

日本語指導アドバイザー

- 日本語指導アドバイザーを招聘し、日本語指導への助言を求める。
- 派遣や研修会・協議会では、適切な日本語指導を確立のための取り組みを行う（個別の能力に応じた「特別の教育課程」の作成、日本語指導支援員と連携した指導内容の構築、JSLカリキュラム・DLAの活用 等）



連動

日本語指導者養成・スキルアップ研修・連絡会を実施して指導力アップ

日本語指導支援員の派遣

- 日本語指導が必要な児童生徒に支援員を派遣し、児童生徒の能力に応じた指導を行う

事業成果

児童生徒の日本語能力アップ
指導者の日本語指導力アップ



- 各地域での取組を情報交換することで、宇佐市での取組をブラッシュアップできた。
- 宇佐市ICT支援チームと協力し、有効なソフトの活用についての研修を開催し、具体的な指導力向上につながる活用について共有することができた。
- 日本語指導支援員兼母語支援員を派遣することで児童に日本語能力に応じたきめ細かな指導を実施した。児童の困りを、日本語指導支援員を通じて、学級担任及び管理職と共有することで、児童に寄り添った教育支援体制を構築することができた。